

アユ人工配合飼料の研究（要旨）

岡 彬・鈴木規夫・戸田久仁雄・高橋昭夫

全国湖沼河川養殖研究会アユ初期飼料研究部会では、アユ人工種苗生産研究部会に引き続き、ふ化後60日前後（全長25mm）からの健全な種苗を育成するための人工配合飼料の開発を目的として、関係機関による連絡試験を実施した。本年度は前年度の飼料を基本にして、魚粉（蛋白質）の配合割合について検討するほか、アルコルビン酸およびリン酸塩の添加効果について追試験が行われた。

当场もこの連絡試験に参加し、魚粉（蛋白質）の配合割合について飼育試験を実施したが、その結果についてはアユ初期飼料研究部会「初期人工配合飼料の研究」昭和55年度連絡試験結果報告書としてとりまとめられているので、ここでは要旨のみを記載する。

- 1) 試験区として、北洋魚粉60%配合区（54年度基本飼料区）、北洋魚粉55%配合区（低蛋白区）および北洋魚粉65%配合区（高蛋白区）を各2槽ずつ設けた。
- 2) 供試魚はふ化後61日を経過した平均全長24.1mm、平均体重37mgのもので、0.5トンパンライト水槽6面に各1,000尾ずつ収容し、人工汽水の循環ろ過方式により60日間飼育した。
- 3) 高蛋白区では試験開始後13日目から背索白化症魚が多数出現し、へい死が継続したので、28日目に試験を打切った。
- 4) 基本飼料区は低蛋白区に比べて生残率、成長、飼料効率とも優れていることから、至適蛋白含量は60%程度にあるものと思われた。
- 5) 基本飼料区は異形発生率も低いことから、今後の連絡試験の基本飼料として使用できると考えられた。